

# 品川支部

令和三年3月1日発行  
〒 141-0022  
品川区東五反田1-8-5  
Tel. 3442-7075

## 3月

天理教品川支部（豊英分教会内） 発行責任者 栗原薫 編集 支部編集部

## もうチョットだ 頑張ろう！！

一日あたり二千人を超える新規感染者で二回目の緊急事態宣言が出されどうなることかと案じていましたが、世界的にも減少が報じられる様になりました。加えてワクチン接種も始まりやっと収束の兆しが見え始めてきました。ここまで来ましたからもう少しですね。

十年前の東日本大震災では周囲の人との『絆』が近くなったと感じましたが、今回は人との接触を避けなければならない状況で、いやでも身近に居て当たり前の存在になっている者、物のありがたさを見直す機会になりました。

自分の身近な人たちを、言葉、態度で楽しく陽気にしてあげられているか見直すことで、この節を良い生き節にできればと思います。

節を超えて、成人した姿を観ることができればそれがご守護ですね。

本部では数の制限はありますが一般の方の月次祭参拝ができるようになってきました。教区、支部でも、いつもイベントに備えての準備をしています。まもなくお会いできる日が楽しみでなりません。



教祖殿



### ☆支部行事のお知らせ

・支部幹事会

三月九日（火）午後6時  
場所 櫻京分教会

・支部例会

緊急事態宣言の解除となれば、今月より再開と致します。尚、今月は二頁目に詳細を乗せていますが三ツ木分教会が会場になります、久しぶりですので多くの方に参加お願い致します。

- ・教区ひのきしん
- ・神名流し
- ・在宅センターひのきしん

支部外の活動は  
今月もお休みです

### ☆教務支庁からのお知らせ

・四月四日教区創立記念祭

コロナ禍により参拝人数限定での開催になります。記念祭には表統領の臨席予定です

・参加対象

教区内教会長、又は配偶者の方

・おつとめ

三交代にて行い、

表統領様講演、弁当配布で終了

### ☆その他教区からのお知らせ

「里親について」

天理教では里親会を立ち上げてから今年で四十周年なり、現在八百の教会で協力頂いているとのこと、里親制度協力団体でもしっかりした子育てが大いに評価されている様です。

これを機に協力して頂ける教会を千五百程度に増やしたいという希望が出ました。最近では里親になるための資格で一定以上の収入の基準等、厳しくなっているとの事ですがぜひお問い合わせ下さい

「時報について」

四月から時報がリニューアル致します。サイズも現行のブランケット版から、半分のタブロイド版になり、より綺麗なカラー版でページにより一般向けの記事にしていくことです。又購入者はネットでも見ることが出来るサービスも同時に行っていく予定です。このこと、読者数の拡大をお願い致します。

「子供おちば帰りについて」

今年七月二七日から八月五日までの予定で行われるとのこと。内容は現在企画中で、従来と形が変わっての開催となるという情報です

拠点教会	7日号	14日号	21.28合併号
日本橋	直送	直送	直送
本 荏	直送	直送	直送
都 南	直送	直送	直送
三ツ木	直送	直送	直送
水豊田	直送	直送	直送

既にお知らせの通りコロナ対策の為、三月も手配りは全て直送とさせて頂きます

### 時報手配り三月予定

# 品川支部例会

## 令和三年三月三十日 (火) 場所 三ツ木分教会

(品川区西品川3-19-12)

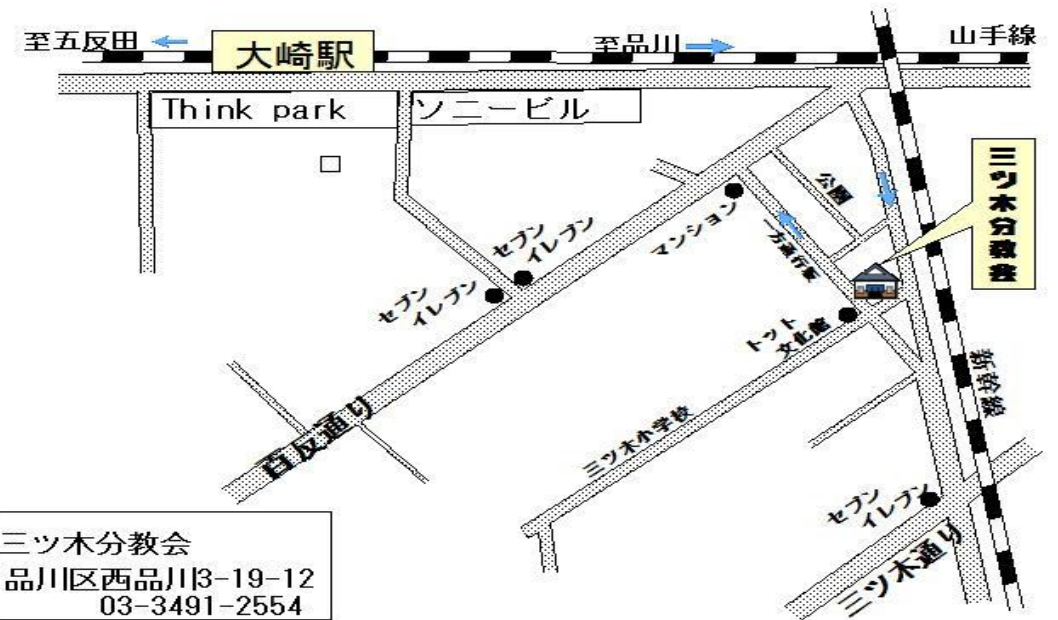
### 内容 座りづとめ よろづよ八首 三下目

### 支部連絡事項

### 当該山中教会長挨拶

### 昼食の用意頂いてます

## \*各教会の方のほかどなたでも (白足袋ハッピ着用)



### 修養科 一期講師を終えて



私は、二年前の二月に、お許しを頂いて三ツ木分教会の五代会長に就任致しました。そんな会長になって、まだ一年半ほどの私が、昨年十月から修養科の一期講師を勤めさせて頂くことになりました。私は、今まで散々と上級や大教会の御用を色々理由を付けて断ってききましたが、会長に就任した時、これからは親の声には「はい」と返事させて頂くことと心定めておりました。まさか一期講師のお役が、こんなにも早く、声がかかるとは思ってもおりませんでした。不安でいっぱいの中、素直にお受けしました。

いざ始まって、男子クラスの副担任の命を頂きまして、最初に受け持つクラスの修養科生さんの名簿を見た時、さらに不安が増えました。八十歳代の身上を抱えた方がお二人、また痴呆症の方、発達障害の方が共に付添いがなしでおられ、さらに

元暴力団の方が、組を抜けて半ば逃げるような状態と、無事三ヶ月、全員揃って修了出来るのかと先案じの不安でいっぱいになりました。と同時に、本当に心からこの御用を真剣に勤めさせて頂きたいと思い、おちばの尊き理を頂き、親神様、教祖にもたれて伏せ込ませて頂くこと、改めて決心して始まりました。

いざ始まってみると、最初の自己紹介から修養科生の皆さんが、ご自身の身上や事情を包み隠さず話されました。私の心配をよそに、お互いを理解し合って、逆に他の人のために何かさせて頂くという雰囲気へと早くからなりました。

このような修養科生さん、私は何を教えたらい良いのかと考えていましたが、まず私が一番低い心で通るとにかく「感謝」出来る人になってもらいたいと思っただけです。そのために、何より親神様のご守護をわかってもらえるように努めました。特に元暴力団員の方は、

ほぼ初めて教えに触れるので、授業後は、一緒におつとめをし三殿参拝して、境内地の除草ひのきしんをさせて頂きながら、色々とお話させて頂く日々を過ごしました。そんな事を一ヶ月してると、クラス関係なく、誰彼とも無く、毎日入れ替わりながら一緒に行動してくれるようになりました。悩み、不安、不足、夢など様々な事を語り合い、少しでも思いが伝わったのかなあ、有難いなあと思っております。

そうして、修了二週間前になった時、私は頭に原因不明の頭痛(結果的には、ばい菌が頭に入った)の身上を頂きました。先生方、修養科生さんにもご心配かけ、おさづけを取り次いで頂きました。その時に、ひとりの修養科生さんから「先生は年下の修養科生さんに対して、上から目線の言動があるから、頭に身上頂いたんじゃないですか」と言われました。私は、その言葉を聞いてハッとしました。距離間を縮めようと

思い、あだ名や下の名前で呼んだり、何か頼む時感謝が足りていなかった。そして何よりも教えてやっていると上からの姿に周りには写っていたのです。最初に一番低い心で、感謝の心で思っていた私自身が、何も分かっていないつもりが、教えられている一番たすけて頂いていたんだと猛省、そして気付かせて頂いて有難いと思いたしました。

その後、最初の心配をよそに、全員無事修了させて頂くことが出来ました。親神様、教祖のご守護はもろろの事、やっぱり人間はひとりでは生きていけない、たすけ合いが大切だと感じました。

そして私自身、たすけられて生きていくと改めて強く思わせて頂くことが出来た三か月間でした。

三ツ木分教会会長  
山中清明